

2011年6月24日 公演時間午後2時から

母畑温泉「八幡屋」にて

福島原発避難者慰問公演

福島原発の被災者、広野町の住人の方々が約250名避難されている母畑温泉、「八幡屋」に慰問公演に行って参りました。ここは政府観光局指定の老舗高級旅館でした。家があるのに避難しなければならないと不便な状況の中ですが、一流老舗旅館のサービスと温泉で避難者の方たちは少しではありますが、心にゆとりがあるように感じました。皆様の昼食時に公演の御案内をいたしますと、「うわさは聞いています。楽しみにしています。」とおっしゃって下さる方もいらっしやり、少しずつ曼珠沙華の名前が浸透してきているように思いました。



曼珠沙華の活動のきっかけとなったハンセン氏病のサナトリウム慰問公演、ハンセン氏病の為に強制収容された方々のためにママローザが、作詞、作曲した『神唄』を披露させて頂きました。「(中略) 立って半畳 寝て一畳 天下をとっても四畳半 着物一着 飯二杯 寝だめ 食いだめ 着だめもできず 風呂に入る時きゃ 皆 裸 (中略) お前百まで たかが 三万六千五百日 (中略)」と

わしゃ九十九まで 百歳生きても唄うと、「そうだ！」という賛同の声が聞こえました。

そして藤中夢弥座長と響のお笑い『天宝山』では、みなさん両手を叩いて爆笑の渦！

皆さんからたくさん拍手と笑顔頂きました。また間もなくすると、皆さんここから次の避難場所へと移動されるそうです。

また不安を抱えて次の避難場所へ、

今まで作ってきた人生の基盤、結婚をし、子供を作り、家を持つ…全て無くされてしまった。人間でありながら、それを全て否定されてしまっ



夢弥座長の「天宝山」に大爆笑！

いるかのように。この方たちの心の傷に触れる事は出来ないけれど、不安を抱えこれからどのようにして生きていけばいいのでしょうか。この事を日本はじめ世界全体の人達が自分の事のように考える。これは人として生きる未来への課題です。

避難所を転々とする事で、ますます望郷の念がつのるのではないのでしょうか… この方たちと出会えば出会うほど、なす術はなく、ただただ希望の光が見出せるよう祈るしかありません。その方達に希望の光が見出せるまで一瞬の慰めでもいい、何度でも避難所を訪れたいと思いました。



皆さんの
明るい笑顔！
どうかこの
笑顔が
いつまでも
続きます様に…



皆さんと公演終了後、ご一緒に